

韓国大学生訪日団（第2団）招へい事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】「対日理解促進交流プログラム」の一環として、韓国全土から選抜された大学生等 25 名が、7 月 1 日～7 月 7 日まで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的として訪日しました。一行はテーマ「東日本大震災から 15 年、被災地視察と日本の防災」の下、東京都、宮城県、岩手県を訪問し、各種視察、日本の大学生との交流、テーマに沿った講義聴講等を通じて、日本に対する理解を深めるとともに、プログラム中の学びや訪問地の魅力について SNS 等で発信しました。

【参加者】韓国の大学生等 合計 25 名

【訪問地】訪日（東京都 25 名、宮城県 25 名、岩手県 25 名）

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

2026 年 6 月 19 日（金） オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

■ 招へいプログラム:

2026 年 7 月 1 日（水）	成田国際空港から入国、オリエンテーション 【視察】李秀賢氏追悼・顕彰碑含む新大久保フィールドワーク
2026 年 7 月 2 日（木）	【学校訪問・交流】帝京大学
2026 年 7 月 3 日（金）	宮城県へ移動、【視察】女川地域の復興：防潮堤の無い街づくり 【視察】震災遺構：石巻市立大川小学校
2026 年 7 月 4 日（土）	【視察】南三陸地域の復興：かさ上げ復興の事例、 震災遺構：旧防災対策庁舎ほか、【視察】震災遺構：奇跡の一本松 【視察】震災遺構：旧陸前高田市立気仙中学校 【視察】東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル 【交流】ホームステイ対面式
2026 年 7 月 5 日（日）	終日ホームステイ
2026 年 7 月 6 日（月）	ホームステイ解散式、【講義・視察・交流】石巻専修大学の学生との共同授業 （石巻市内復興状況の講義、日韓混合グループで実際のまちづくりの状況フィールドワーク及び復興案についてディスカッション及びその成果を石巻市役所へ提言として提出）、成果報告会
2026 年 7 月 7 日（火）	仙台空港から出国

2. 記録写真

	
2026 年 7 月 2 日【学校訪問・交流】帝京大学	2026 年 7 月 3 日【視察】女川地域の復興の様子
	
2026 年 7 月 3 日【視察】震災遺構：石巻市立大川小学校	2026 年 7 月 4 日【視察】旧防災対策庁舎
	
2026 年 7 月 4 日【視察】震災遺構：旧陸前高田市立気仙中学校	2026 年 7 月 4 日【視察】東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル
	
2026 年 7 月 5 日【交流】ホームステイ解散式の様子	2026 年 7 月 6 日【講義・視察・交流】石巻専修大学の学生との共同授業

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

現地で当時震災を経験された方々の様々な話を聞くことができた点、ホームステイで素朴で愛情あふれる日本の家庭の雰囲気を感じることができた点、日本の同世代の友人たちとの交流などが、すべて良かったです。また、日本語を学んでいても普段日本語で会話をする機会があまりなく残念でしたが、ホームステイや日本の学生たちとの交流を通じて、自然に実力が向上しました。また、親交を深める中で、日本の方から直接日本の文化やマナー、流行などを教えてもらえる機会が貴重で有意義な交流となりました。

◆ 韓国 大学生

直接被災地に入り、特に気仙中学校や大川小学校を訪れた時には、当時の困難な状況が肌で感じられ、また、淡々と話してくださった石巻市立大川小学校での犠牲となった生徒のお父さんの言葉を聞いて、本当に胸が痛みました。ニュースで断片的にしか知らなかった東日本大震災について、より詳しく知ることができて良かったです。決して他国の出来事ではなく、関心を持ってさらに多くを学ばなければならないと思いました。

◆ 韓国 大学生

韓国では経験できない防災体験ができ、実際に被害を受けた地域を肌で感じ、自分の目で直接見て感じ、自ら考えるきっかけになったことが最も良かったと思います。また、訪日前は防災に関する知識があまりなかったのですが、災害の痕跡と復旧の過程を自分の目で確認し、当時の被害の規模や犠牲を鮮明に感じる事ができ、それらを保存して防災教育に活用している姿が非常に印象的でした。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 一般社団法人 南三陸町観光協会 関係者

このたびは南三陸町にお越しいただき、誠にありがとうございました。滞在中は、地域の文化や暮らしに関心を持って積極的に交流してくださり、皆さまの明るく前向きな姿勢が、地域に温かな雰囲気をもたらしてくださいました。民泊体験では、日々の生活をともにする中で自然と会話やふれあいが生まれ、言葉や文化の違いを越えた心のつながりが築かれていたことと思います。離村式での別れを名残惜しむ様子からも、そのつながりの深さを感じることができ、私どもにとっても心に残る光景となりました。またぜひ南三陸町にお越しいただき、再び皆さまとお会いできる日を、関係者一同心より楽しみにしております。

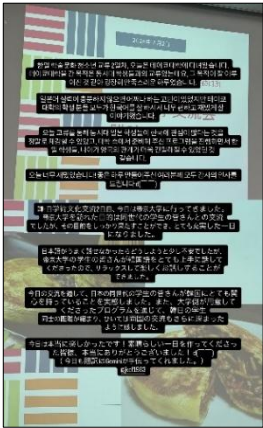
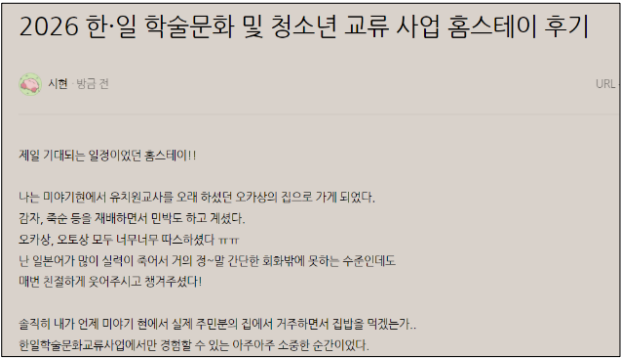
◆ 南三陸町 ホストファミリー

ニュースなどでは日韓関係についてネガティブに報道されることもありますが、実際にお会いした学生の皆さんはとても友好的で明るく、前向きな方ばかりで、受入れにあたっての不安はすぐに解消されました。また、日本語も大変お上手で意思疎通に困ることはほとんどなく、終始楽しく過ごすことができました。かるた取りを一緒に行った際には、日本語を学習中の皆さんにも大変好評で、和やかな時間を過ごすことができました。「また南三陸に来たい」と話してくれる学生もあり、大変嬉しく感じております。

◆ 学校訪問先 学生（帝京大学）

普段の学校生活で同世代の韓国人の友人たちと交流する機会があまりなかったため、今回の交流がとても有意義な時間となりました。韓国語でのディスカッションではそれぞれの国の食文化について意見を出し合いながら交流を深め、さらに、趣味や関心のあることなど、その人自身を知る時間となり、国を超えて新しく友人ができたことが本当に良かったです。またこのような交流の機会があればぜひ参加したいと思いました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2026 年 7 月 2 日（Instagram：大学訪問） 今日は帝京大学を訪れました。帝京大学を訪れた目的は、同世代の学生たちとの交流でしたが、その目的が十分に達成されたようで、とても充実した一日でした。今日の交流を通じて、同世代の日本の学生たちが韓国に大きな関心を持っていることを本当に実感することができ、大学側が準備してくださったプログラムを進める中で、日韓の学生たち、ひいては両国の関係がさらに緊密になったように思います。	2026 年 7 月 3 日（Instagram：大川小学校） 津波は予測不能なあらゆる方向から押し寄せ、海水だけでなく、周辺のゴミなどによる被害も甚大だった。遺族の方は、「大川小学校をはじめ、地震によって被害を受けた場所を、これからも決して忘れてはならず、大川小学校は未来を切り拓く場所である」と、強調されていた。
	
2026 年 7 月 5 日（Naver Blog：旧防災対策庁舎） 写真は、南三陸町の旧防災対策庁舎の現在の様子	2026 年 7 月 7 日（Naver Blog：ホームステイ） 一番楽しみにしていたホームステイ。私は、宮城県

だ。周辺にはもともと右側の写真のように大きな集落があったが、津波によってすべて消え去ってしまった。当時は庁舎は高い建物だったが、現在は周辺よりも低い場所に位置している。災害に備えて、町全体の地盤を盛り上げたためだという。わずか数分の間に大きな町が跡形もなく消えてしまったという事実には驚き、その現場を自分の目で直接見て、災害の恐ろしさと備えの重要性をより一層実感することができた。庁舎で勤務されていたある女性が最後まで残り、避難誘導の放送を続けてくださったおかげで、多くの住民が迅速に避難することができたが、その方は結局、犠牲になられたと聞いた。自分の職業と業務に責任を果たす素晴らしい方々がいてこそ、より多くの人々が被害に遭うことなく、安全に暮らしていけるのだと感じた。

で長年幼稚園の先生をされていたお母さんの家にお世話になることになった。ジャガイモやタケノコなどを栽培しながら、民宿も営んでいらしかった。家族の方は二人とも本当に温かかった。自分の日本語がだいぶ下手になっていたため、会話のほとんどが簡単なレベルだったが、毎回親切に笑いかけてくださり、気遣ってくださった。次にいつ宮城県でホストファミリーのお宅に滞在し、手作りの食事を食べられるだろうか…。訪日団でしか経験できない、とてもとても貴重な瞬間だった。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（概要または抜粋を記載する）

【成果の発表】 ・本プログラムを通じて、日本の学生との交流やホームステイ、視察を経験し、語学力と異文化理解を深めることができました。実際に日本語で交流する中で相互理解を深めるとともに、被災地では震災遺構や遺族の方々の証言に触れ、東日本大震災の被害の大きさと記憶を継承する重要性、防災意識の必要性を実感しました。また、国境を越えたつながりを築き、今後のグローバルなコミュニケーション力向上への意欲を高める貴重な機会となりました。 【アクション・プラン】	【成果の発表】 ・今回の視察を通じて、災害は単に建物に被害をもたらすだけでなく、人々の生活や地域社会全体に長期にわたる影響を与えるという事実を身をもって感じるすることができました。大川小学校や震災遺構、いわて TSUNAMI メモリアルなどを訪問し、当時の被害の規模や犠牲を鮮明に理解することができ、それらを保存して次世代の防災教育に活用している姿に深く感銘を受けました。また、女川や南三陸など、復興した地域を見て、より安全な街づくりのために継続的に努力されていることを知り、日頃から防災意識を持って備えることがいか

・ 1) 観光ルート設計（研修終了後 2 週間以内） 今回の日程では時間の都合で見学できなかった他の防災遺構を含め、1～2 日分の観光コースを設計し、現地で作成したメモ（女川の再建哲学、赤レンガの区画、20m 規制、駅移転の経緯など）をコースごとのストーリーテリング資料として再構成 2) 広報コンテンツ制作（1 ヶ月以内） 各防災遺構訪問地の写真、解説内容、個人的な感想を盛り込んだカードニュースおよびブログ記事 「災害を避けられないなら、感知し、備える都市」という女川の復興哲学を核心メッセージとして企画 3) オンライン配信および拡散（2 ヶ月以内） Instagram、NAVER ブログなどに順次アップロード	に重要かを改めて実感しました。 【アクション・プラン】 ・ SNS を通じて東日本大震災の教訓や防災の重要性を紹介し、視察の経験を共有する。 ・ 国際交流プログラムや日本文化イベントに積極的に参加し、日本の学生たちとの交流を継続するとともに、防災や地域復興の事例を周囲の人々に広める。 ・ 大学内の国際交流活動に参加し、今回の経験を基に同期や先輩たちにプログラムを紹介し、参加を勧める。 ・ 日韓の青年交流活動に継続的に参加し、両国の文化や社会をより深く理解する。 災害対応や防災教育に関心を持ち、関連する講演やボランティア活動に参加する。 今回の経験を基に、地域社会や国際交流に貢献できる活動を着実に実践し、日韓間の前向きな交流の継続に役立つ人間になりたい。
--	---

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金